

# おすすめびと: 矢部希見子 先生



18年ぶりに  
書き下ろし新作!

## 十二国記



## 何しろ面白い。

カバーに少女漫画のような絵が描かれているため、少女向けの軽い小説と誤解されやすいが、学生はもちろん、大人、そして政治家のにも読んでもらいたい本である。

12の国からなる世界の話であり、国政を司る『王』とそれを支える神獣『麒麟』によって国の運命が分かれる。

政治、国のありかた、戦争、移民、親と子、庶民の幸せなど、現代にも通じる様々な問題について深く考えさせられる。

ある王が言った『真難は成事にあらず』という言葉は、多くの読者に衝撃を与えている。

どの冊子から読み始めても楽しめるし  
何度も読み返したくなる本である





ダニエル・チャモヴィッツ (著),  
矢野真千子 (翻訳)

## 植物はそこまで知っている

### 感覚に満ちた世界に生きる植物たち

多くの人にとって、植物は環境の一部であり、鑑賞生物の一つで、食物の一部であるだけかもしれない。

しかし、この本では、ヒトが花を切り取る際にも植物はそのことを感じ、また、記憶にとどめることを説明する。

著者は、何度も『植物には脳がないことをいつも思い出して、植物を安易に擬人化して表現することを戒めなければならない。』と記述しているが、さらに科学が発展すれば、植物特有の痛みや不快感を感じるメカニズムが明らかになるかもしれない。

動物愛護法に類した『植物愛護法』が設定される未来を予感させる本である。

## 生き方

KDDI を創業し、JAL を再生に導いた『経営のカリスマ』と呼ばれる稲盛和夫氏の考えが記載された本である。仕事での成功のみが評価されがちであるが、成功するか否かにかかわらず、大きな夢を描き、その夢に向かって夢中に頑張れることの**喜びに力点**が置かれている。

『一日一日を**ど真剣**に生きなくてはならない』の言葉には、若者へのあたたかな期待が感じられる。

## 本当の幸せに出会うスピリチュアル処方箋

スピリチュアルとあるので、宗教的なニュアンスが強いかと敬遠されるかもしれないが、人生で起きる理不尽なこと、苦しくてつらいことを経験したとき、**どのように考えるべきかをアドバイスしたビジネス書のような本**である。『心は傷つきます。けれども、本当に傷ついたのではなく、『削られた』のです。削られて、磨かれたと考えましょう。深く傷ついた人はそれだけ強く輝ける人になれます。』他人とのかかわりがあってこそ成長できることを一貫して説いており、優しく温かく、そして正しいと感じられる方向に目を向けさせてくれる本である。

